

専門研究B

知的障害教育における組織的・体系的な学習
評価の推進を促す方策に関する研究
—特別支援学校(知的障害)の
実践事例を踏まえた検討を通じて—
(平成25年度～26年度)

研究成果報告書

平成27年3月



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

はじめに

学習評価は、児童生徒の学習状況を把握するものであり、その結果を教育活動の充実に生かすために行うものです。中央教育審議会の平成22年3月の「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」では、障害のある児童生徒の学習評価に係る基本的な考え方として、「学習指導要領に定める目標に準拠して評価を行うことや個人内評価を重視すること、学習指導と学習評価とを一体的に進めること、指導目標や指導内容、評価規準の設定においては一定の妥当性が求められること」など、障害のない児童生徒に対する評価の考え方と基本的に変わりがないとしています。また、知的障害教育においては、「個別に設定した指導目標や内容に基づいて指導が行われている」が、そこでは、「目標設定や指導内容・方法の妥当性に十分配慮すること」が求められているとしています。

また、平成24年度の予備的・準備的研究で行った調査では、評価の観点を定めて学習評価を行っている学校がある一方で、共通の観点を定めたり、評価の時期、方法を共有化したりするなどの組織的な取組には必ずしもなっていないことが明らかになりました。個々の学校の状況をみますと、授業ごとや、一つの單元ごとに学習評価は行われていますが、相互の関連付けや、年間指導計画に基づく総括的な学習評価との結び付きが明確になっていない点も窺われました。このような課題を解決するに当たっては、学習評価が大きな意味をもつものであると考えます。

こうした点を踏まえ、本研究では、知的障害教育における組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策を明らかにすることを目的にしました。

テーマに基づいて研究協力機関において評価の観点や評価方法の工夫、学習評価のPDCAサイクルについての聞き取りを行い、実践事例の検討をとおして組織的・体系的な学習評価を進めるために参考となる事項を明らかにしました。また、特別支援学校(知的障害)を対象に、組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策について質問紙調査を実施し、今後の促進方策について検討も行いました。

これらのことにより、評価の観点を定めた学習評価の方法の工夫、組織的・体系的に行う学習評価のPDCAサイクルの在り方など、学校が必要としている学習評価の実施方法や活用の在り方について、事例と併せ、提示をすることができたと考えます。

特別支援学校(知的障害)において組織的・体系的な学習評価を進めるために必要な情報が提供されることで、目標設定や指導内容・方法の妥当性が高まり、教育活動の充実が図られると考えます。

今後、学習評価の研究を教育課程の研究についても活用したいと考えております。本報告書をお読みいただき、忌憚のないご意見をお聞かせいただけますと幸いです。

研究代表者 教育支援部上席総括研究員 尾崎 祐三

目次

はじめに

第1章 研究の概要

- 1 研究の背景と目的……………1
- 2 研究の全体構造……………2
- 3 研究体制等……………3
- 4 研究成果の公表・普及……………4

第2章 知的障害教育における学習評価の意義と課題

- 1 中央教育審議会で指摘された学習評価に関する課題……………5
 - (1) 学習評価に関する課題と本研究で検討する課題……………5
 - (2) 学習評価に関わる用語の整理……………6
- 2 特別支援学校学習指導要領で求められる学習評価……………9
- 3 知的障害教育において観点別学習状況の評価を取り入れることの意義……………10
- 4 先行研究（国立特別支援教育総合研究所, 2012）における知的障害教育の学習評価の現状と課題……………12

第3章 本研究において検討する4つの柱

- 1 知的障害教育における学習評価のPDCAサイクル……………14
 - (1) 知的障害教育における学習評価のPDCAサイクルの作成……………14
 - (2) 教育計画作成段階（P）……………15
 - (3) 指導計画・評価計画を踏まえた教育活動の実施（D）……………16
 - (4) 学習状況の評価、授業の評価、指導の評価（C）……………16
 - (5) 授業改善、指導計画の改善、教育課程の改善（A）……………17
- 2 本研究において検討する4つの柱……………18
 - (1) 本研究において検討する4つの柱の位置付け……………18
 - (2) 観点別学習評価の在り方……………20
 - (3) 学習評価を学習指導の改善に生かすための工夫……………20
 - (4) 学習評価を児童生徒への支援に活用する方策……………21
 - (5) 組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策……………21

第4章 特別支援学校（知的障害）における学習評価の実践の概要

- 1 岩手大学教育学部附属特別支援学校の概要……………24
- 2 福島県立いわき特別支援学校の概要……………28
- 3 千葉県立八千代特別支援学校の概要……………32
- 4 千葉県立特別支援学校流山高等学園の概要……………36

5	静岡県立袋井特別支援学校の概要	41
6	京都府立舞鶴支援学校の概要	45
7	広島県立庄原特別支援学校の概要	49
8	愛媛大学教育学部附属特別支援学校の概要	53
9	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校の概要	56

第5章 本研究において検討する4つの柱と実践事例

1	観点別学習状況の評価の実践	61
(1)	観点別学習状況の評価の概要	61
(2)	愛媛大学教育学部附属特別支援学校の実践	62
(3)	千葉県立八千代特別支援学校の実践	72
(4)	京都府立舞鶴支援学校の実践	80
(5)	千葉県立特別支援学校流山高等学園の実践	90
(6)	研究協力機関の実践のまとめと考察	95
2	学習評価を指導の改善に生かす実践	96
(1)	学習評価を指導の改善に生かす実践の概要	96
(2)	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校の実践	97
(3)	福島県立いわき養護学校の実践	101
(4)	岩手大学教育学部附属特別支援学校の実践	116
(5)	静岡県立袋井特別支援学校の実践	125
(6)	研究協力機関の実践のまとめと考察	131
3	学習評価を児童生徒への支援に活用する実践	136
(1)	学習評価を児童生徒への支援に活用する実践の概要	136
(2)	京都府立舞鶴支援学校の実践	137
(3)	千葉県立特別支援学校流山高等学園の実践	144
(4)	研究協力機関の実践のまとめと考察	148
4	組織的・体系的な学習評価を促す実践	150
(1)	組織的・体系的な学習評価を促す実践の概要	150
(2)	広島県立庄原特別支援学校の実践	151
(3)	千葉県立八千代特別支援学校の実践	158
(4)	愛媛大学教育学部附属特別支援学校の実践	164
(5)	静岡県立袋井特別支援学校の実践	171
(6)	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校の実践	182
(7)	研究協力機関の実践のまとめと考察	188

第6章 特別支援学校（知的障害）における学習評価の現状と課題

1	全国特別支援学校知的障害教育校長会の情報交換資料での調査結果	190
(1)	「学習評価に関する研究及び検討の取組の有無」について	190
(2)	学習評価の研究に取り組んでいる場合、または取り組んだ場合の研究タイトル	192
(3)	「観点別学習状況の評価」の実施状況	192
(4)	学習評価の組織的活用状況	193
(5)	総合考察	193

2 特別支援学校（知的障害）における学習評価に関する全国調査の結果	194
（1）目的	194
（2）方法	194
（3）結果及び項目毎の考察	196
（4）総合考察	225

第7章 研究のまとめと今後の課題

1 生きる力を育成する観点別学習状況の評価	229
2 指導と評価の一体化について	231
3 児童生徒の発達を支援する学習評価の活用	233
4 「組織的・体系的な学習評価の推進を促すための方策」のまとめと課題	235
5 組織的・体系的な学習評価に基づく教育課程の評価に関する課題	239
6 特別支援学校（知的障害教育）の実践を参考にした特別支援学級の学習評価の進め方	240
7 知的障害教育における学習評価の在り方に関する今後の課題	242
寄稿 知的障害教育における学習評価の今後の在り方	244
文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 丹野 哲也 氏	
資料編	248
研究体制	255